

岳北地域高校の魅力づくり研究協議会 第3回農林高校部会（会議録概要）

- 1 開催日時 令和2年11月30日（月）午後14時00分～15時37分
- 2 場 所 下高井農林高校 峻嶺会館
- 3 出席者
部会長 木島平村長 日基 正博
副部会長 栄村長 宮川幹雄
木島平村教育長 小林 弘
栄村教育長 石澤 清人
下高井農林高校同窓会長 村松 剛志
中野・下高井中学校長会 木島平中学校長 伊賀 雅志
下高井農林高校PTA会長 上埜 暁子
信州いいやま観光局常務 石田 一彦
飯水岳北建設労働組合長 真篠 剛
北信州森林組合利用事業室長 滝沢 良一
特別養護老人ホーム里山の家木島平施設長 大日向 久美
栄村森林組合職員 上野 由希菜
木島平村農業振興公社事務局長 小林 正俊
オブザーバー 下高井農林高等学校長 久根 敏
オブザーバー 長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室
主任指導主事 上原 一善
事務局 木島平村教育委員会子育て支援課長 島崎かおり
木島平村教育委員会子育て支援係長 武田 幸一

4 開 会

5 あいさつ（部会長、部副会長）

日基部会長

皆さんこんにちは。新型コロナ第3波とされている中ではありますが、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。ご存じのとおりと思いますが、管内の高校でも感染者が出たということで、そのあと大きな広がりに至っていないということではありますが、下高井農林高校と地域を繋ぐ様々な行事、イベント、企画があったわけではありますが、残念ながら

中止をせざるを得なかったものもあります。それからまた内容変更をしながら行ってきたものもあるわけですが、下高井農林高校の先生方そしてまた生徒の皆さんは、地域と密着した取り組みを真剣にやっという思いが強いということを感じているわけでありませう。この内容はぜひ来年以降、更に充実拡大させていきたいと、その中には高校と先生と生徒、それから行政だけではなく、やはり地域の皆さんがすべて含めて皆でそこに関わってくというような姿勢というのが大事かなというふうに感じております。

それともう一点はやはりその取り組んでいる中身、魅力をいかにPRしていくか、小学生、中学生そしてまた地域の皆さんに下高井農林高校に行くところというふうな事ができる、こういう体験ができる、こういう技術が身に付くんだということをしかりと情報発信をしていって、それが最終的には下高井農林高校の魅力になってくるんだらうと思います。

そんな面で、今回も具体的な中身について皆様方にご協議をいただきたいと思ひます。当然、何かをするということであればそこに経費、費用が掛かってくる訳であります。木島平村はもちろんでありますが関係市町村でも、それを見据えた準備が必要だらうと思ひますので、それらの対応についてもこれからまた協議をしていきたいと思ひております。

いずれにしても新型コロナが今は拡大していますが、いつまでも続くというふうには思っておりませぬ。やはりいつかは終息してくると、そのときになって慌てて準備を進めていくのではなくて早い時期から、そして活動ができるような状況になったらすぐにも動き出せる、思い切り動けるような体制を整えていきたいと思ひます。今日はまた県から上原さんにもお越しいただいております。当然、県教委にも色々な面で要望、要請をしていかなければならない。そのためには皆様方の一致した声というか、地域のみんが望めているかということを理解してもらえような取り組みが必要だらうと思ひますので、よろしくお願ひ申し上げます。以上を申し上げまして私の挨拶とさせていただきます。

よろしくお願ひします。

宮川副部会長

皆さんこんにちは。栄村の宮川でございます。今、部会長の日墓さんからお話がありましたけれども、このコロナ禍の中で、下高井農林高校の生徒の皆さんは本当に様々な場面で一所懸命活躍をされているという事が、テレビまた新聞等で最近報道されている事が非常に多くなって嬉しく思っているところでございます。制約されている活動というのが本当に多い訳でありまして、各地域においても私共も文化祭等でそのうちやっていたらこうとか色々な計画が中断、中止という形になってきて誠に残念なところが多かった訳であります。これからこういった活動を更に続けていけるような体制、また地域として何ができるか一所懸命考えていかなければならないなと思ひているところでございます。このコロナという時代のなかで私共が今まで暮らしてきた色々な事について、もう一度考える時間を与えられたというふうにも私は思っている中で、下高井農林の今後の在り方について、生徒の皆さんと一緒に考えていく事が大事だなと思ひております。生徒が、これから更に元気を出

して頑張っていけるぞというような気持ちになっていただけるように、私共、一所懸命考えていきたいと思っております。大変寒くなってきましたけれども、これから冬に向かって元気に、そして我々も地域のことを考えながら、皆さんと一緒に下高井農林のこれからの方向を定めていければいいなと思っております。以上です。ありがとうございます。

6 議事・会議事項

日躰部会長

はい、それでは私の方で進行させていただきます。最初に第1回、2回を通した農林高校部会からの意見、提案について、前回会議の中で報告して参りましたのでその点につきまして事務局から報告をいたします。

事務局

はい、それでは木島平村教育委員会事務局子育て支援課子育て支援係長の武田です、よろしく願いいたします。それでは私の方から(1)の資料1に基づいて説明の方をいたします。それでは掻い摘んで説明の方をさせていただきたいと思っております、よろしく願いいたします。それでは1の第1回、2回の農林高校部会で出された意見提案でございます。項目につきましては裏合わせまして、その他含めて7項目ございました。

まず1つでございますが、交流事業等とした高校の魅力の発信ということでありました。農林高校生の学校生活活躍をもっとマスコミを使って発信してほしいということでありました。それは小学生、中学生に対しても発信することが大事である。3つめのところでは高校生自らが、農林高校の魅力をPRしていくことが大事なんだということも内容にございました。2つ目、農林高校生の地域課題研究についてでございますが、3つほどのところでございますが、今ある地域の現状を把握し、今後の活性化のために高校生の力を借りて課題研究でも取り組んでほしいという話でございました。地域の現状や授業に対して関心を持つことが大変大事であるという事でございました。3、専門高校としての農林高校に期待します。玉掛、フォークリフト等々の資格取得できるのは大変ありがたい。建設業界では災害復旧等の現場では有資格者が大変不足しているという事と、中学校生徒、保護者にカリキュラムを伝え多様な生徒の受け入れそういった事が大事だという事。あと4番目の環境と地域創造につきましては、森林セラピー等々そういったものの取り組みへの期待などの意見がございました。4番、卒業後の進路、大学との連携でございました。5番、行政、地域と財政的な支援、課題でありました。1つ目は冬期間、冬場の定期バス。バス代の補助等々でございました。あと海外農業研修ということで、海外での学び推進事業参加費の補助ができればという事でありました。海外研修で、国際的な感覚の挑戦を図る必要があるというご意見でした。めくっていただきまして6、県への要望、要請でございます。校舎の外観もっと魅力的にして欲しい。2番目は中山間地の存立校の基準、その基準の枠を考えさせてほしい。

3点目、売上金を生徒に還元できるシステムの構築でありました。4点目に施設、機械、学校施設等の整備をお願いしたいということでありました。7番目につきましては、ご覧のとおり3点ほどの意見がございました。以上でございます。

日墓部会長

はい、何かご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

では、確認という意味で、これまではどちらかというのと次元的というか、大雑把な目標を掲げてご意見をお聞きした訳であります。それでは次に、今の1に関わって今後の下高井農林高校の取り組みという事で校長先生の方から現在の状況、またこれからの取り組みについてお話をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

下高井農林高等学校 久根校長

皆さんこんにちは。先ほどは、部会長の日墓村長さん、副部会長の宮川栄村長さんから本校の生徒、学校に対しまして改めてお言葉をいただきまして本当にありがとうございます。このコロナの中でもできることを工夫してやるというのが、学びを止めないという事でその時その時の様子によって、臨機応変に対応しなければいけない事もある訳ですけれども、そんな中で地域連携というところが本校の売りとなっていて、そこの部分を授業の中で行う、実習の中でも外に出ていくことも十分にある中で日々できることを考え進めております。まず今、事務局の方でまとめていただきました第1回、2回目の方で、本校の魅力づくりということで、様々な方面からご意見の方をいただきましてありがとうございます。このことに関しまして、校内でも率直にどのような形でこのことについて対応できるかという事を、職員の方で検討してきております。その資料の1の裏面ですかね、取り組みについてa～eまでということを前回の宿題というような形でいただいておりますが、これはaだ、これはbだと確実に言っていくというところもあるのかもしれませんが、できるだけできる、または長期的に見て取り組まなければいけない事ということで検討がされて参りました。それにつきまして、こちらで私の方でその結果についてお話させていただければと思います。着座にて申し訳ございません、失礼いたします。それでは、まず大きく1の交流事業等とおした高校の魅力の発信というところにつきましては、今現在既にやっているところもありますので、現在進行形もしくはすぐにでもという事で行っているものです。魅力を発信するというような事については、本校でもここ何年も一番大事なところでもありますので、色々な形で少しずつ変えて進めてきておりました。例えば「農林だより」ですけれども、それにつきましても最初は近隣の中学校だけであった訳ですけれども、この岳北地域全体のスーパーであったり、温泉施設等、それから村内の方は回覧板というような形でも配布をするような形で少しずつ広げてきているということで、本校の取り組みをできるだけ認知していただきたいというところでやっております。特に今、中学校に対しては、クラス数プラスα掲示も含めて配布をしております。合わせまして今年ですけれども、インス

タグラムの方を本校公式Instagramを作りまして、ほぼ3日に1遍くらいの、ちょっと今の時期になりましたので大分頻度は低くなっていますが、それでも5月、6月生徒が臨時休業明けのところからはかなりの頻度でアップしております。ぜひご覧いただいている方もいらっしゃるかと思いまけど、また、「いいね！」を押していただくと本当にありがたいなと思っておりますが、それにつきましては中学校の方にも、中学校訪問、春、秋にやっておりますけどもPRをしております。更に、PRということと言いますと学校説明会ですけども、この地域の中学校さんには教頭の方が出向かせていただきまして、本校での取り組みを中学生に直接説明させていただくと、豊田中さんにつきましては、先日2年生ですけども学年を挙げて学校見学に来ていただきまして、来年度を見据えたところの部分かと思えますけれども、非常にありがたいことでありましてですね、校内での実習の様子等を合わせて見ていただいております。そんなことで1につきましては今現在、進行形のところではありますので、また更に引き続き深めていきたいというところでもあります。2の地域課題研究ですけども、これにつきましては特に1番上、SDGsの関係ですけども、本校は6月に長野SDGsプロジェクト、みんなのSDGs宣言というところに宣言をしまして、17の行動目標のうちの14に宣言をしております。農業高校ですので、どの取り組みも、またどの課題研究もほぼほぼどこかには関わってくる訳ですけども、それを意識してやるかどうかというところが生徒の中にも、また職員の中にも必要かと思っておりますので、学校を挙げて取り組んでいくというところでもあります。地域活性化プロジェクトにつきましては先日、日墓村長様にも生徒の方でプレゼンをさせていただいておりますところではありますが、地域この地元の馬曲温泉公園を中心とした地域活性化プロジェクト、生徒の方ができる内容という事で10年越しのプランを発表させていただきました。また、色々な面でご支援等もいただくような話になっておりました、本当にありがたいことだと思っております。生徒が主体的に考え進めていくのが1番大事なところかなというふうに学校では考えておりますので、これ以降の話にも関わってくる訳ですけども生徒のやりたい事であったり、研究したい事に職員が支援をしていくようなイメージです。実際には指導していくところも当然ある訳ですけどもあくまでも主体は生徒だと、それをすることによって地域で学び、地域愛といいますか郷土愛ですね、そういったものも同時に育まれるのかなというふうに思っております。そんな訳で地域課題研究につきましては、1それから2のところですけどもこの辺りは「b」もしくは時間を掛ければという「c」のところに入るかと思えます。観光面の3のところの信越自然郷につきましても生徒の課題研究等でそういった話が出てくれば、ぜひこの学校全体を知るという意味では、大切なことだと思っておりますので時間をかければできることなのかなというふうにも職員の中でも意見の方は出ております。4につきましては、同窓生の企業を訪問し、というような内容になっておりますけれども、外部講師として既にお越しいただいて、学校の方で授業の一環を担っていただくようなところも今までもしておりますので、まずはそういったところからまた企業の方を見させていただくと、またそこから更に本校でまた考えておりますデュアルというシステムに繋がるような流れ

になっていけばということで、これにつきましてはすぐにできる事、もしくは時間をかけてできる事かなと思っております。3につきましてはですけども、3の1はもう今現在もやっておりますけれども、非常に今年の3年生もそうですが、就職の方面で建設土木の関係ですけども希望していく子も実際におります。地域にとっては非常に色々な意味で地域を担う直接、力となっていく生徒だと思っておりますので、今すぐにでも、現在進行形というようなところかなと思っております。1、2、3についてはそういった内容になるかと思いません。4の環境地域創造ですけども、これも特に森林セラピーという名称はありますが、これはちょっと長期的に考えなければいけませんけれども、生徒の課題研究の中でそういったことに興味、関心が出てくる子がいればそういった方面でも力添えをいただければと思っておりますので、長期的な時間をかければできるのかなと思っております。ぜひ地域の方にもご協力を、そういった事があればお願いできればというふうに思っております。5につきましては全体を通して、今までの流れで本校ならではの魅力という事は日々発信をし、また継続していくと。6につきましても既に今年のアンケートでも変更しておりますけれども、紙ベースでも中学生向けに配布しておりますけれども、魅力アップ、更新をしながら卒業生の生の声ですね、そういったものを届けたいというふうに思っております。4につきましてはですけども、進路につきまして大学との協定、連携という事ではありますが、協定というのはちょっとなかなかハードルが高いところもある訳ですけども、連携につきましては今、地域行政の市町村の方で大学との連携を、協定等を結ばれているようですので、そういったところに生徒の課題研究等がうまく合えば一緒になって連携をさせていただくということが可能かなと思います。もう一つ、課題を本校の職員の中で検討する中で出てきているのは、まずは大学生の生の声を本校の1年生、2年生の段階だと思いますけど、来ていただいて、まず大学とはどういうものかという大学の魅力を伝えていただくと、大学へ進学するところの意識づけの部分も実際には最初から諦めてしまっているところもあったりする中で、やっぱり上の学校へ進もうというところの1つのきっかけになるのかなというふうに思いますので、そういった意味での連携をさせていただければというふうに思っています。5につきましては非常に実際的なところだと思いますけど、現実的には非常にありがたいお話かと思っておりますので、本校としてはこれから雪が降ってもほぼ今まで自転車通の子はバスを使うというよりはほぼ保護者の方が送ってくると、バス代を払うよりは保護者の方が送ってくるパターンがかなり多くなるかと思っておりますので、そういったところで少しでも保護者の負担軽減といった意味でのところでは本当にありがたいなと思っておりません。2につきましては海外の農業研修ですけども、これは昨年度、県の事業でもありますが、信州つばきプロジェクトに本校の生徒が手を挙げまして、実際には県からの補助をいただいている中で参加しております。農業だけの研修ではなくて、他の全県の中での事業でもありますので、そうはいつでも本校の生徒は海外で色々な方面での学びを深めてくることのご支援をいただけるという事であれば、本当にありがたいなと思っております。裏面の方でありますけれども、県への要望要請のところにつきましては、本校が直接話ができ

るところではないかと思いますが、学校としても要望を上げているのは特に外観、施設設備の部分ですね。そこにつきましては学校としても上げておりますし、販売実習等の売り上げの還元システムにつきましても農業高校全体の話は県への要望を出しているというようなところでもあります。以上になりますけれども、ざっとであります但本校でいただいたご意見、ご提案につきまして検討した結果を説明させていただきました。よろしくお願いいたします。

日墓部会長

はい、ありがとうございます。これまで部会で出されました意見について、既に下高井農林高校の方で取り込んで具体的な活動に繋げているという事でもあります。また、更にはこれからは高校だけでなく、地域の皆さんと一緒に協力をしながら進んでいく、そのような体制がもっとしっかりできれば良いのかなというふうに思いますが、今の校長先生の話に何かご意見、ご質問ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうかね、また後でも色々出てきますので、その中でも色々お話をさせていただければと思います。

それでは続いて具体化に向けてということで、資料2の方について事務局より説明をお願いいたします。

事務局

はい、それではよろしくお願いいたします。資料2でございます。大きく分けて令和2年度の今後も継続する取り組み、そして2点目で令和3年以降の取り組みという事でまとめたものでございます。先ほど、校長先生の方からご説明を一通りいただいているものと被るところも多々ございますが、資料をまとめましたので若干掻い摘んでご説明の方をさせていただきたいと、このように思います。よろしくお願いいたします。

それでは1、令和2年度の今後も継続する取り組みという事で5点ほどございます。1つ目には地域支援活用という事です。地域の課題に取り組む、課題研究という事です。飯山市、木島平村という事で2点ほどございますが、行政としまして補助金の活用、そうした継続してきたその事業の推進を引き続き図っていくという事でございました。飯山市の伝統産業でありますとか、ご覧の資料の作品、その他、渋柿等々そうした地域資源を活用、課題研究に繋げていくという事でございます。2番目につきましては、課題研究発表に中学生の参加という事でございまして、1月23日土曜日に予定しておりますので、こちらも中学生に案内をしていくという事でございます。3、高校生が今活動している内容を小中学校、地域に発信、先ほどのご説明にもありましたが、小中学校及び近隣市町村の施設等にも配布を広げていくという事でありました。4、中学校の進路指導でございます。中学校の先生方、農林高校のカリキュラム、活動とその成果等々をよく把握してもらい、そうした心構えの対策を打ち出していく必要があるという事でございました。5、農林高校の卒業後の進路ということで、農林高校が必要とされている高校である事も発信、そうしたものを引き続き行っていく

という事でございます。それでは大きい2、令和3年度以降、新規及び一部前年度からの継続を含むであります。こちらにつきましては裏面含めて8点ほど大きく分けてございます。青いラインでそれぞれの項目に委員さんの明記をお名前をさせていただきました。特に事業と関連性の高い方々にそれぞれのお立場で経験、意見やアドバイスをいただきたいという趣旨のもので明記の方をさせていただきましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。まず1つ目、キャリアアップ教育の充実であります。先ほどもご説明ありましたデュアルシステム実施体制の構築でありました農業系、農業生産系、森林建設系それぞれ受け入れ先につきましては経営者協会ですとか森林組合、関連企業、受け入れ体制の充実を図っていくという内容でございます。○の2つめ、大型車両乗車体験です。除雪車体験でございます。3点目にドローンを使った体験とスマート農業への挑戦という事で行政機関、専門企業の方を講師に迎えて技術取得を行っていくという、例としましては農業につきましては肥料散布であったり、林業土木関係ではドローン測量、スマート林業、高性能機器の研修等々といったものが考えられるのではないかとこの事になりました。2、交流授業、コミュニティ農林としての実践ということで、幼稚園、幼保、小中高校及び地域による交流活動の活発化に向けてという事でございます。高校生が中学、そして地域への交流の活性を図ってはどうかという事でありました。せつかく10年越しのプランという事でありましたが馬曲温泉公園活性化プロジェクト、小沼ほうきですとか、内山和紙、そば、6次産業化、地域資源、産業推進により一層繋げていくという内容でございます。2つ目の○ですが、大学との連携協定を活かしてという事で課題研究とのテーマに応じて関係する大学等との連携を図っていくと。こちらにつきましては市町村における大学連携を通じて交流事業を一層推進していくという内容でございます。裏面お願ひします。3の農林高校そばのブランド化であります。こちらにつきましては高校生が作るそば栽培、収穫、販売そうしたものを通じて経営参画を挑戦していくという事でありました。4番につきましては農林高校の魅力化、地域との交流を調整するコーディネーター的人材の配置であります。5番につきましては行政、地域の財政的な支援という事で、コーディネーター配置人件費、冬季におけるスクールバスの運行がございました。あとは、海外研修推進関係とドローン研修等々でございます。6、県への要望、要請活動でございます。資料1にもございましたが、校舎の外観整備でありますとか、岳北地域における高校教育の在り方についての意見、提案書の実現であるとか、生徒の還元の見直し、そしてドローン機器の購入支援、中山間地存立基準の見直し等々、繰り返しになりましたがそういったものの要請を出していくという事です。8のその他という事で。4点ほど掲載してございますが、またご覧いただきたいと思ひます。以上でございます。

日基部会長

はい、まだざっくりした内容ではありますが、ここに森林組合の方で具体的にドローンを使った、活用した事業それについて説明をお願いいたします。

北信州森林組合 滝沢利用事業室長

はい、皆さんご苦労様です。森林組合の滝沢と申します、よろしくお願ひします。11月4日の日ですけれども、森林事業にドローンの活用という事で、この写真につきましては木島平スキー場を上がってくとところと牧ノ入スキー場へ行くところの約50mぐらい上がったところの山でございます。これについてですね、この写真はそのときに撮った、いつ撮ったかはわからないですけれども場所はそういうところになります。これがドローンの活用という事で、11月4日の日に星印のあるところでドローンを農林高校の生徒とうちの組合の職員4、5名でやっていただいたという事です。大変失礼ですけれども私は担当が違ひまして大変皆さんにご説明できるものができませんので、ちょっと見てもらって一番最後に農林高校生と撮った写真がございます。こういうメンバー、こういう人達でやらせてもらったという事でございます。ここに北信ローカルの渡辺さんもいらっしゃるのですが、ローカルの方でも記事に載りましたので大変僭越ではございますが、読ませていただいて、これが森林組合が思っているところという事で、今後も農林高校生ともやりたいというような話の中で聞いていただければわかると思うのでよろしくお願ひします。

農林高校でスマート林業の体験ということで下高井農林高校は4日、スマート林業学習の一環として北信州森林組合と連携して、多彩な担い手育成事業JCT、情報通信技術活用研修会を木島平スキー場で初めて開催した。同校グリーンデザイン科2年生11人が参加し、森林林業におけるドローンの活用方法について学び理解を深めました。森林組合は、近年の林業従事者の減少から地域の担い手育成のため、林業系育成を図ることを目的として地元の高校生の林業に対する関心を高め、後継者の増大を目指しています。同校1年生には森林林業への関心を高める研修会、2年生には最新の森林林業事業の研修、3年生の森林活用コースでは機械操作などの実習、実地研修を実施するなど総合的な就業体験をするよう取り組んでおります。今回の研修では生徒自身がドローンを用いて操作、林業に関するICT技術その活用に触れました。という事でございます。私は5、6年前ですけれどもチェーンソーアートというものをやせていただいて、今ここの農林高校の入り口にありますが、熊とかフクロウとか作らせてもらって、私もたまに参加させていただいたときに、先生と一緒に作ったものは今、木島平村おひさま保育園と木島平小学校にも飾ってあります。これについては5、6年前にどうしてこういうものを作って、誰が作ったのかをPRしようと思って勝手に自分で持って行って、そのときの小学校の校長先生についてフクロウは二つあって初めて一つを満たすと言われて、もう一つ作れと言われて持って行ったりしたことがあります。そんな中で、先ほどから出ているとおり、小さい時からそういうところで誰が作ったんだろう、僕もこういうのを作りたいなというような気持ちになれるのが良いのかなと思ったときに、たまたま持って行ったのが今も農林高校についてはずっと続いておりますので何十体も、何十体じゃない何百体ぐらいはできています。その材料の提供等は森林組合でやらせてもらっているという事で、良い事だなと思っております。それでちょっと戻ってドローンの関係です。これはドローンというのはこういう信州大学との連携で

という事で、ドローンで木の間伐木をどのくらいにするとか、残存木をどのくらいとか、これはドローンで全部そこに森林の材積がどれくらいあるか、ということがこれからの研究ならできるかな、これについては本当に農林高校生の頭の柔らかい生徒の皆さんに真剣にやっていただければ凄く進展の、色々な面についても本当に助かる、管理業務とか運営の面で凄く助かるというか、やはり農林高校生の皆さんに来てもらえれば良いかなと思っています。今ここでそんな事を言うより1回目、2回目で言えば良かったのですが、大変勉強不足で全然同じ組合にいるのですけれどもいる部署が違うので、今回ここに名前書かれているのもっとまじめにというか真剣にやらなければいけないと思い慌てて教育委員会でコピーしてもらって今日話しをする感じになりまして、そうは言ってもこれで質問されても何もわかってないのですけれども、いずれにしても森林組合もドローンのレーザーの関係でドローンもレンタルして借りるような話も聞いていますので、ぜひまた活用していただきたいと思います。そんな事で、以上、まとまりませんが大変申し訳ございませんが、よろしくお願ひします。

日基部会長

はい、ありがとうございます。今の林業という話でしたが、ドローンの活用についてはこれから農業面とか観光面とか色々な面で利用されてくるんだろうと思います。そのためのAIなども同等に進歩しているという事で、こういうものを下高井農林高校の生徒さんがしっかり身に着けて、そして社会でしっかり役立つということが、進路だけでなく高校の魅力にも繋がっていくのかなと思います。ドローンをどういうふうに確保するのか、買えば良いのか、借りてやっていくのかそういう課題がある訳であります。これらについても、また予算的な部分で関わってきますので、検討の材料にしていきたいと思います。特に令和3年度以降、キャリア教育から交流事業等どちらかという事務局の方でこういう形で提案をした内容であります。それぞれ、今日はお見えでないところもありますが、この関連でここではどんな事ができるとか、あんな事はどうかとか、こういうふうにしたらどうかという提案がありましたら、それぞれまたご意見をいただければというふうに思います。どなたからでも良いのでご意見を願ひします。

飯山市さんが来てないですけど、実際に飯山市とは飯山高校を含めて高校自体が活動する地域活動について補助を出すという事でやっている訳ですが、農林高校で関わっているのはこの今、出ている案件だけという事ですかね、まだ他にもあったんですかね。

下高井農林高等学校 久根校長

はい、飯山市さんにつきましては、そばの関係で今年は瑞穂地区と実際に播種から始まってやらせていただいて、今年コロナの中ですけどもなんとかその形で進めております。そば以外にも補助金のような形でいただいているのはあるのですけども、思うようにちゃんと今年のところでは上手く進んでいないところが交流というところがありまして、実際には

本校で育てたカブトムシの幼虫等を木島平村さんのご協力もいただきながら持っていったという事もあったのですが、要するにこの地域の自然の魅力を発信するというようなところも生徒の課題研究の中の1つとして上げてやっておりましたが、その部分について今年ちょっと上手く、県外へなかなか行けないというところもありますので県内の方でやるような形になっておまして、そんなところでもご支援いただいております。

日墓部会長

あと、宮川さん何かありましたら。

宮川副部会長

これで良いです。

日墓部会長

良いですか。はい、下高井農林高校につきましては、そばを今、真剣に取り組んでいただいて、先月ですかね参加高校はちょっと少なかったのですが全国大会の中で優秀、最優秀賞という事で、大変農林高校の魅力の面にも繋がってくるんじゃないかというふうに思います。今年、瑞穂地区ではそば栽培という事ですが、できれば村の中でもそば栽培をして、それを全て高校生がやるのはなかなか難しい話なので、例えば村の中に農業振興公社がありますので、公社が村の中でそば栽培を進めて、その中で一緒に高校生のそばとして、高校生が作ったそばということであればと思うのですが、公社の事務局長がいるのでちょっとその辺どういう体制が取れるのか。

木島平村農業振興公社 小林事務局長

はい、農業振興公社の小林と申します。本日からという事でよろしく願いいたします。現在、農林高校とのそばに関する公社の支援に関しては、公社で事務局を持っていますそば打ち研究会、こちらの会員の皆さんがそば班の皆さんのそば打ちの方の指導に入っているという状況でありますし、またそば打ち道場を村内の農村交流館の中にあるのですけれども、そういった施設の使用に関して支援を行っているという状況であります。公社の方で挽いたそば粉を農林高校の方で買っていただきながら、そばを提供してもらっているという状況であります。先ほど、瑞穂地区の方で播種から栽培の方までやっているというお話を聞いた訳ですけれども、今後、村内でもそばの播種、栽培の方を含めて高校生と連携していけるのも一つ良いのかなというふうには思ったところであります。以上でよろしいですか。

日墓部会長

はい、本当に今の魅力になっているのでこれをまた更に広げていくと、ただそうは言ってもあまり高校生だけだと負担も大き過ぎるので、逆にくたびれちゃうのでやはりそういう

部分は地域で支える部分は、地域で支えていくという形で広げていければなというふうに思います。あと、農業現場であるとか、建設現場であるとかそれぞれで高校生の体験とか研修を受け入れるというような事も計画した訳ですが、今日は農家の皆さんがいらっしゃらないので、今、森林組合の方から話がありましたが、建設業の方とか今日、伊東さんはいないけど、真篠さんの方で何かそういう計画を具体的にできますかね。

飯水岳北建設労働組合 真篠組合長

今、お話があったのですが、今のところ具体的にどういうふうに考えているとかないのですが、うちの方、訓練校も持っているのも、もし、何かコラボとか一緒にできるような事があれば、うちの方でも対応ができるんじゃないかなというような考えはあることはあります。今、うちの方は訓練校と一緒にしているもので、とりあえず今はそんなような状態で、もしそういう話があれば学校側の方からもこういうものに関して指導してもらいたいというようなお話があれば、うちの方は協力体制はできると思うのでとりあえず今のところそんな感じです。

日基部会長

具体的にどういう訓練内容なのか、その辺も話してもらえれば。

飯水岳北建設労働組合 真篠組合長

今まで学校関係、去年、一昨年ですね、南宮中学の方に行ってイス関係とかそういう指導は学校の先生方にも指導しております。去年、飯山でもそういう話があったのですが、たまたまコロナ関係で中止という事でやっていないのですが、一応そういう要請があればできるような体制にはなっております。そんな感じでよろしいですかね。

日基部会長

また高校の方で何かできる事があったら。

下高井農林高等学校 久根校長

はい、ありがとうございます。令和3年度の先ほどの資料2の2-1のところのデュアルシステムというものにつきましては、1回目の農林高校部会のときに少しお話をさせていただいているのですけれども、今キャリア教育という事で進路を見据えて本校でもやっている訳ですけれども、その中で1年次に5日、2年次にも、1年次2年次、合わせて5日という形ですかね春と秋、短期間でいわゆる職業体験のような事をしていく事を進める中で実際には進路を意識づけていくと、早いうちから進路を見据えた事を進んでいく中で、自分も主体的に課題研究の方にも入っていただけますし、最終的には進路に結びついていくという事を意識しながら教育活動をしているわけですが、デュアルシステムというのはですね、

それを長期に渡ってやる形で実際には農業でいうと例えば稲作にしても野菜作りにしても4月、5月とずっとやる内容は播種から始まって増えて収穫、更にそのあと販売というところまで含めて、要所要所を押さえて年間に渡ってずっと入っていくというのは難しいから、週に1回から2回、1日その先進農家さんであったり、企業さんであったりというところに出向いて行って授業、これ一応単位認定していく話になりますので、授業を直接現場でやらせていただくというそういう流れがデュアルシステムで、今、新しい学科の方でも考えているところであります。その中で、先日10月23日の日ですけれども、農業関係で言いますとその地域の農業経営者協会の飯水支部の方8名の方にお越しいただいて、北信農業支援センターの方に仲介していただきながら、本校のデュアルシステムについて説明をさせていただいて、ぜひ協力していただきたいというような事を投げ掛けてお願いをしております。特にもう一方で建設森林の関係ですね、そこら辺のところはまだこれからになっておりまして、ぜひ今のお話ですと、年間にわたってそういうような形でなかなか森林関係というのは私も知っている訳ですが見えないところがあるのですけれども、生徒がどのような形で携わるのかというのを森林組合さんでも結構ですし、関連の企業さんもあるかと思えますけれども、要所、要所でやはり生徒が入っていく中で実践的な学びを深めていくと、それを3年次にやっていきたいと、これは希望者ですけれども全員絶対ではないです。もちろん今までのように学校の中でも課題研究を取り組んでいく子もいるわけですから、外で実際にそういう話でそれが結果としては課題研究になる訳ですけれども、研究という形で実践的な教育をさせていただくとそういった事を考えておりまして、ぜひそういうところにお力を本当に貸していただくとありがたいなと、今、お話をお伺いしながら思ったところです。色々な企業さんが地域にはあるかと思えますけれども、コーディネートしていただくというようなところも含めてお願いできればなというふうに思っております。ありがとうございます。

日基部会長

農業そしてまた建設業と、もう一つやっぱりこの地域でこれからどうしても必要な人材というやはり福祉になる訳ですけれども、介護の現場ではそういう受け入れというのはできますかね。

特別養護老人ホーム里山の家木島平 大日方施設長

はい、里山の家木島平の大日方です。今まで職業体験みたいところで年に2回、春と秋と生徒さんを受け入れさせていただいて、実際にお年寄りの方と接した事がないお子さんだったりとか、触れた事がないお子さんも結構いらっしゃる中で、実際にこういう事をするんだというところで本当に興味をもつていただけるお子さん達いっぱいいらしかったので、ぜひぜひ今後もこういった体験だとか経験とかというところを通じて福祉とかにも興味をもってもらえればありがたいなと思っておりますので、もしまた機会があればぜひ続け

ていただければなと思っております。

日基部会長

今、校長先生の話を知くと本当に1回、2回の体験じゃなくてやはり長期的にスケジュールを組んで受け入れをしていくという事なのですが、そういう対応というのはできますかね。

特別養護老人ホーム里山の家木島平 大日方施設長

はい、そうですね、もし可能であれば学校の方でもそういった技術的なところだったりかを多少でもやっていただけると、ありがたいかなとは思いますが、そうでなくてもこちらでということであればまたそれもこちらの方で検討させていただければとは思いますが。確かに2日、3日とかではあまり色々な経験というところはちょっと難しいのかなと思うので、少し長くできる機会があるのであればそれは良いのかなと思います。

日基部会長

実際高校ではどうですか、そういうことを進路、就職先として希望している生徒さんというのはどのくらいというか、いますかね。

下高井農林高等学校 久根校長

今の段階では何とも言えなのですが、やはり農業高校ですので専門は農業、農業科の職員なので専門教育をやっているのですが、福祉の専門ではないというところが一番大きいですね、今は地域公民の職員が福祉の方を持っているというところがあります。本当でしたら福祉の免許を持った職員が来て、福祉の部分を担うような事の授業もこれからやれないといけないという事も出てくるかと思いますが、今はちょっと本校の体制ですと、ガッツリそれをやるというのはなかなか厳しいなと思います。2年次で今は福祉の授業がありまして、そういった中で今、色々な実習をやらせていただいたり、また社協の方にもお越しいただきながらこう教えていただいて実習等の形を取ったりという事になりますので、興味ある子はいるかと思いますが、その専門だけを全て年間通して授業でやるというのは難しいかなと思いますので、3年次の課題研究というよりは、それに至るまでの2年次までのキャリア教育の中での取り組みで、また色々な形でご支援いただければというふうに思っています。

日基部会長

はい、農林高校としてやはり難しい部分もあるかもしれませんが、その他、来年度計画しているこんな事はどうかと提案していた訳ですが、これについて皆様の方でご意見等ありましたらお願いいたします。石田さんどうですか、何かありましたら。

信州いいやま観光局 石田常務

信州いいやま観光局の石田と申します。お恥ずかしい話なのですが、デュアルシステムという事がわかりませんので先ほど勤務時間外に検索して参りまして、学校現場と私共職業現場という事の連携の中でそういったものを一緒に生徒さんのために提案していく事かなというふうに考えてございます。その中で、このデュアルシステムの実施体制の構築というのは観光現場とすると非常に歓迎する事かなというふうに考えてございます。どんな部分かと申しますと、例えば近年この飯山市含めて木島平村さん、野沢温泉村さんそれから周辺の自治体の中で極めて有望なのは自転車あるいはE-バイクというようなツールを使いながらの観光というのが今、非常に注目を集めているところでございまして、その中で1つ案内役、インストラクター役ですが、これがそのスキルとして語学力が巧みという事ではなくて、実はおいしいお米の作り方ですとか、美しい森林の在り方ですとか、その管理の仕方ですとか、あるいはおいしい畑作物ですとか、そうしたものが説明できるという人材が非常に案内役、アテンダーとしては重宝がられている部分もございまして。そうした中で私共、観光局とすると、森の家ですとか、あるいはアクティビティセンター、飯山駅の観光センター、高橋まゆみ人形館、湯滝温泉、道の駅含めてほしい95人ぐらいのスタッフでやり繰りさせていただいているのですが、ぜひ下高井農林高校さんとですね、こういった連携をさせていただく中で、校長先生から長期間というご説明がございましたけどなかなかやり方については工夫も必要かなというふうに思うのですが、私共、観光現場とすればぜひこうした部分について、生徒さんと協力をさせていただきながらですね、この素材を広めていきたいなというふうに思います。ぜひまたよろしく願いいたします。

日基部会長

はい、今年残念ながら中止になってしまいましたが。高校生が先ほども言いましたが、10年プロジェクトの中で子供たちが地域を案内するような、案内をしながら地域の魅力を伝えていくと、そんな取り組みをしていきたいというような事でありましたが、ちょっとその辺校長先生の方で。

下高井農林高等学校 久根校長

案内する事が目的になってしまうといけませんけども、要は地域資源活用というのが大前提にあって、生徒が地域の色々な資源を活用しながらそれを課題研究の一環として取り組みという大前提があります。その上で、結果的にそれが観光に繋がったり、地域をもっと自分たちが知らなければ結果として何のために馬曲温泉をバンブーキャンドルで飾るだという話であったりとか、その背景にはやっぱり集客の部分の話だって生徒にする必要がありますし、結果として魅力とは何なのか、地域の魅力という話に繋がっていく、そういった中で自分たちも勉強して、観光、県外からの観光客の方を地元の、自分たちの高校生の声

で魅力を紹介しましょう、というようなそういった話に10年プランの中では話が膨らんできていると。高校生ができる事ですので、お金は本当に必要なとんでもない様なプランニングというのがあまり思い浮かばないかもしれませんが、できる範囲でそういうような事を生徒自ら考えてきているという事であります。なので、観光だけが先行してしまうのはちょっと農林高校としては、やりづらいところが逆に言えばあるのかもしれませんが、結果としてそれが地域の魅力を県外なり、海外なりの方が来ていただいた時に喋れる、話ができるとそういったところに繋がっていければそれが観光にも繋がるんだろうなというように思っておりますので、やはり一番最初に、冒頭にちょっとお話ししましたが、本校の専門教育の部分を何らかの形で活かして、結果的にそれが観光にも繋がるというところかなというふうには思っております。そういった意味でノウハウを含めたアドバイス等は本当にいただけるとありがたいなというふうには思っております。

信州いいやま観光局 石田常務

すみません。よろしいですか。おっしゃった通りですね、例えばホテルのフロントですとかいわゆる観光業ということではなくて、通常の例えば農業に就きながら、或いは林業の方をやっていただきながらそうした人材が幅広い観光というか観光人材としてご協力いただけると、ときにはそういった活躍というか一緒にやっていただけるというそういう広い、広域の範囲での観光人材というようなこの地域にとってはですね、非常に魅力的な人材ですのでそういった人材育成のためにもですね、こういったデュアルシステムものを少し農林高校さんと一緒にやらせていただければ嬉しいかなというふうに思います。

日碁部会長

はい、デュアル教育の方に話が集中していますが、交流事業、小学校中学校とまたそれから市町村が連携している大学との交流という事で、うちの村のことはわかるのですが、例えば栄村さんでは交流というと松本大学とか長野大学とかありますけど、実際にはどのような交流をされているのかちょっと教えてもらえると。

宮川副部会長

はい、交流というのはなかなか難しいところがあると思うのですが、例えばうちの方では長野大学の生徒さんが来て村の中でシャッターに絵を描いていただいて、この地域の例えば今、猫の絵を商店街のところに描いてもらったりとかそういった事をやっていて地域の魅力を、そういった事をやっていただいています。もう数年間やっていただいているような事をやってもらっているのですが、先ほどからお話があった地域の魅力とかですね、一番は生徒さんたちもそうなんです、そこに住んでいる我々がこの地域を自分たちが好きだと。家の米が一番美味しいとか、この空気が一番美味しいとか、うちの方が一番いいんだというその思いを我々がいかにしてここに住んでいくか、我々の足元をもう一回見つめ直して、こ

ういうものを我々がいかにするかというような事が非常に大事だと思っているんですね。そうした中で、今度生徒の皆さんがやっぱりどうやったらここに魅力を持っていただけるかというような事を色々な人との関わりの中から自分たちでそう思ってくれるような形をいかに作っていくか、こういう事が非常に大事なんだろうなというふうに思っています。学校と色々な連携とかいう中で私共は、松本大学と長野大学さんとここに書いてありますけど、これについては教育長さんの方が詳しいのかなど。私も良くわからないのですが、今、言われた絵を描いたりしながら学生の皆さんと地域の商店街の皆さんとがああいう形の中でお付き合いをさせていただいてこういうような事がございます。あと、つい昔は横浜の栄区の皆さんと子供たちの交流で10年間ぐらい子供たちが栄区に行ったりとか向こうの子供たちがうちの方へ来ていただいたりする中で、そういった中でテレビで見ていると都会とかそういう良いところしか見えないようですけども、実際に子供たちが東京とか都会へ行くと、これは大変だと。この夏の暑い時に中華街なんか見てひっくり返っちゃうみたい。ああいう思いを実際にすることによって、自分たちの住んでいるところの良さをもう一回、ああここはいいところだとかう思ってくださっているとかですね、そういったツアーみたいな事をずっとやってきた事があるのですけれども。色々な事をやりながら子供たち、生徒の皆さんが一番良いと思う形を我々地域と一緒に作っていくというふうな事が大事なのかなどというふうに思っております。すみません。

日墓部会長

はい、ありがとうございます。先ほど校長先生から話があったみたいに、やはり外の学生と交流する中で進学にどういう意味を感じるかどうか、そういう事を、そういうきっかけなる事によって、農林高校の生徒さんが自分の進むところをしっかりと見据えて進学なり就職なりしっかりと、しっかりと学ぶそういう習性を取っていくということが大事かなというふうに思います。そんな意味でそれぞれが交流している大学に限らず、学校とかそういうところと色々な形で連携を取れる、深めていきたいというふうに考えていますのでよろしくお願いします。それと、今日の題目がいっぱいあるのですが、そばについては先ほども話がありましたが、4番の下高井農林高校の魅力化と地域の交流を調整するコーディネーター的人材という事ですが、これについては、地元という事で木島平で1名なんとか確保したいなというふうに思っています。専属で1人に任せてしまうという事にはならないというふうに思いますが、下高井農林高校が地域との交流授業を行う、それから研修の受け入れをするとかそういうようなスタイルに、その下準備をしたり、交流の仲介をしたりそういう事ができる人材については村の方で何とか用意したいなと、確保したいなというふうに思っています。これについては、また村の方で予算の事もありますので検討させていただきたいというふうに思っています。それから財政的な支援なのですが、今日は県から県教委もお越しいただいているので、やはりこれから農林業にしてもやはり魅力を高めていくには最先端の技術とかそういうものをしっかりと身に付ける人材というのが必要なのだら

うなというふうに思います。そういう面で度々話が出てくるドローンとかそれからA I 技術を取得するための進路とかそういう事について、校舎の改修等もありますが、含めて県の方ではそういうような財政的な支援とかそういった感じで、下高井農林高校が必要としている最先端な機械とか整備するそういう事ができそうなのかどうなのかちょっとその辺をお聞かせいただければと思いますのでお願いします。

長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室 上原主任指導主事

今、財政的な支援ができそうかというところでご質問をいただいているのですが、実際のところですね今はコロナの関係もありまして、ありましてという事で言い訳にはいけないのですが、やはり1人1台の、小中の義務のところでは1人1台のノートパソコンと言いますかタブレットであるとかそういったところで学びの流れ、学習を止めない政策と言いますか授業をそれぞれ工夫していただいて、何とか1人1台は確保しようというような動きでG I G Aスクール構想というようなところもありますけれども進められております。そんなところも実はA Iの技術を先端を学んでいくというような段階で、非常にちょっと先に考えていた事が、この時期に早まったというような認識でおります。今、実際に生徒の中の県の中の会議においても、パソコンを通じてこのズームというようなところでテレビというのでしょうか、オンラインで会議を普通に持っております。ですので、そんな形の中でこれから先、先端技術のところもありましたけれど、当然、先端技術の施設設備というのは必要になってきます。もう高校によっては自動走行の草刈機であったりだとか、そんなところの導入に向けて実際に動いている学校もございます。ですので、ドローンであるとかそういったところを計画的にやはり考えて予算立を上手く理由を付けながら、今度の学科改編というのでしょうか、そんなところも絡めながら上手く教材として必要だということを主張していくと言いますか、何とか理由を付けていけば可能性は無きにしも非ずかなというふうに思います。必ずしもここで取れるというような事はなかなか発言できないのですが、そんなところかなと思います。先ほどのドローンの関係もそうなのですが、学習の中で飛ばすであるとかそういう操作するという段階だけではなくて、そういった事も垣間見て非常に体験するという事が重要なのですが、普段自分たちが行っている授業というのは多分、平板測量という測量の本当に一丁目1番地の基礎基本を習っていると思うのですが、その基礎基本がしっかり押さえられて、その上で最先端の技術を見る事ができて、今までやっていた自分たちの苦労して描いている図面だとかというのは、今の技術を使うとこんなに的確にというか、正確にできるんだなというようなところを自分の中で再構成をして、ああその道は非常に面白そうだなという様なところを確認していくという事が重要かなと思いますので、併せてやはり学校の授業の中、教育課程をみていただいていますけれども基礎基本のところをしっかりと押さええていただいて、その後のというような事が非常に重要かなと思います。宇宙の関係でいけば今、学校によっては衛星画像を使ってお米の良し悪しというのを見ている学校もあります。人工衛星からの画像でこの田んぼのところはタ

ンパク質が多いので食味に関してはこうだ、ああだというところを画像の分析によってできる時代ですので、そんなところも含めて色々な教材等の準備ができれば良いのですけれども、ちょっとまたあとの学科の構築に合わせて研究させていただければと思います。

日躰部会長

はい、ぜひご支援していただきたいというふうに思います。村の方でも、ドローンを農業面で活用しているという事でちょっと今年ではできなかったのですが、一昨年ドローンで水田を観察して、そこで追肥、要するに肥料の状況ですね足りているとか足りていないとか、水管理がどうなっているとか、それからまた登熟度を見てどの田んぼ、どの圃場がもう刈り取りになっているとか、全部ドローンのセンサーで調べてそれを活かしていこうというような事で取り組みをしてきた経過もあります。そんなことも含めて、当然ドローンを使った肥料の散布であるとか、色々な可能性があるというふうに思いますので、その辺また下高井農林高校としっかりと打ち合わせをしながらどういうものが必要なのか、それがあつてによってどういう効果があるのかという事も含めて検討しながら、また県教委の方にまたそういうような提起をしていきたいというふうに思いますので、ぜひまたご支援いただきたいと思います。今、ドローンの話をしてはいますけど、ドローンだけでなく先ほどの自動草刈機もありますし、無人運転のトラックとかも実用化されようとしている段階ですので、やはりこれからの農業も林業も生産性を上げていくには、やはり最先端の技術を導入していかななくてはならない時代なのだろうと、そういうふうに思います。前に農家さんの代表も言っていました、農業は儲かるのか儲からないのか、儲からなければ誰もやらないぞ、というような話をしていました。やはり儲かる産業にしていくには、生産性を高める技術の進歩というのがどうしても必要なのでそこが大きな、子供たちにとつても魅力の1つなので、それをしっかりと見いだせる学校になっていければ、更に魅力が高まるかなというふうに思いますのでよろしくお願ひします。それともう一点、前々からお願ひしている販売実習の売上金の生徒さんへの還元はどうですかね。やっぱり、前から言っているように、売ったものがやはり子供たちの将来の投資に繋がるという仕組みが是非できないかなと思つていますが、今の子供たちが売つてその収益が今度、自分の後輩に受け継がれていって、その売り上げの中から来年、再来年の投資ができるというような仕組みができないかというふうに思つてはいるのですがその辺はどうでしょうか。

長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室 上原主任指導主事

今、売り上げの中からという事で、県の方ではそういった授業の基金と言いますか、資金のところだとインセンティブ予算というような位置付けをしまして、農場収益のそれぞれの農業科の圃場であつたり、動物を飼育しているものですからそこから上がつてきた収益の中で、3パーセント分を学校に戻しております。3パーセントというとやたら少ないじゃ

ないかというふうに思われるとは思いますが、学校によっては乳牛を飼育しているところではあれば700万円近く上がるので、その3パーセント分が学校の教材費として返ってくるというところで、実際にそれで足りない教材であるとか、課題研究で生徒が必要とする物が学校ではすぐに手に入らないような機材であるとかというようなところは、購入して生徒の課題研究に充てていくのです。その増額のところに関しては、なかなか農業の校長先生方の会からも強い要望を上げていただいております。そんなところで、ちょっとまた研究させていただいてという事で即答と言いますか、すぐに上げるとかそういう事ができませんけども、一応要望は各方面から強くいただいておりますので、そんなところをご理解いただければと思います。

日基部会長

はい、これについてはもう結構ずっと前から要望している内容で、やはり子供たちが自分で作った物を自分で売れる、それがどういうふうに評価されるかというのが一番これからの経営の励みになるだろうとそういうふうに思います。その面では、その上げた収益がその地域にどういうふうに活かされるか、後輩とか、活かしていくというのは大きな励みになると思うので、そこから経営観念とかそういうもの生まれてくるのだろうと思いますので、特に職業高校ではその辺の学習というのもしっかりしていかなければ、いく必要があるのではないかというふうに思います。ただ作って、値段をどういうふうに決めたかわからない、なんとなく値段出して決めたけど、儲かったか儲からなかったかわからないという話だとやっぱりあれだし、しっかり原価計算して売ってそして正当なというとなかなか難しいですが、収益を上げてそれが再投資に繋がるというそういう循環がやはり学習の一つだというふうに思いますので、ぜひ何かの折にまた申し上げますので、度々要望してください。また上原さんの方からも押していただきたいというふうに思います。その他の大きな課題として、今、校長先生もおっしゃっておられましたが、子供たちの通学の問題ですね。やはり、親御さんがほとんど学校へ送り迎えしているという事で、その支援体制これはなかなか難しい。今、長野電鉄のバスを使っているのがほとんどだというふうに思うのですが、ここに新しいバスを出すと今度、長野電鉄が撤退してしまう可能性もあるという事なので、その辺、原状どうなのでしょう。部活、朝とかそれから部活の後とかはバスの利用と、自家用車での送迎というのは大体どのような感じで。

下高井農林高等学校 久根校長

はい、ちょっと今正確な数字は持ってきていなくていけないのですが、夏場と冬場というのは基本的に違くと、バスは使っている子はいます。一定数います。中野方面から来ている子もいますし、長野から来ている子もいます。わずかですけれども。城北中の辺りの子は一旦飯山まで出てそこからバスで来る子もいますが、ほとんど自転車で来ているという、市内の子も自転車で来ている。自転車で来ている子もいれば、女子あたりはバスを使

っている子もいるという事で、大体そんなに割合としては実はバスは少ないかなと思います。30~40人くらいはいるかなと思いますけれども、圧倒的にやはり地域それから飯山の城南中辺りの子供は自転車で来ているか、もしくは保護者の送迎です。夏、冬関係なく。といった中で、自転車で来ている子がこれから冬場になるとバスを使わないといけない、そうは言ってもなかなか費用がかかるという事で、保護者による送迎に変わっていくので、保護者送迎の割合がこれから更にまたかなり冬は増えてくるという事かなと思います。野沢温泉あたりの子も自転車で来ている子もいますけれども、冬は送迎になるかなというふうに思います。

日墓部会長

例えば校長先生を感じとして、そういう交通手段がなかなか確保できないという事で、進路先を他にするとかそういうような事があるというふうに感じていますか。どうですか、校長先生その辺は。

下高井農林高等学校 久根校長

はい、この地域の子についてはある程度わかると思うのですが、旧2通の子がこちらに来るときには、やはりそのところは物凄く考えるのかなというふうには思います。実際のところ、JR沿線沿いであれば雪で止まることは事はあるかも知れませんが、そこから更にこちらに来るときに、バス代の事も考えると保護者の立場からしてもお金はその分だけ更にかかるだろうなというところはあるかなというふうには思います。

日墓部会長

なかなか難しい課題なのですが、何か良い案があったら出してもらえればと思いますが。それぞれ飯山市も村もデマンドバスとかシャトル便とか、そういうような便は持っていることは持っているのですが、通学用となるとなかなか使いにくい部分もあったりするので、大きな問題なのですがまた皆さん良い知恵があったら是非出してもらえればと、飯山高校は確か昔、同窓会か何かでバスを用意して、山ノ内の方から有料ですけど利用している子供たちがいるという事なのですが、どなたか良い案あれば何か。

宮川副部会長

そういう法律が変わって、そういった体制でバスでやるというのはできなくなったというふうに聞いているのですが、できなくなったというか、地域の保護者会みたいところで例えばバスを仕立ててスクールバスみたいにするというのは。隣の津南中等学校が塩沢と六日町、南魚沼からそうやって運んでいたのです、それができなくなって一気に子供たちが減ったというような事を聞いています。結局、足の確保が難しく保護者会でか、何かそんなんでマイクロバスを仕立てて、送迎体制を組んでいるその時は六日町の方から来てたり

していたのですけれども、それができなくなった事によって一気に減ってしまったという
ような事を聞きました。

日墓部会長

県の方でそういう事例みたいな、何か似たような事例があったら教えていただけますか。

長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室 上原主任指導主事

公共の交通機関というのが非常に再編整備に係って非常に重要な問題でして、今現在の
ところで言うとたぶん蓼科高校が町からの支援をいただきながら、田中駅から学校へ向け
てのバスが出ていて、第5通学区からの流入と言いますか通える良さというのもそんな
ところで確保しているかなと思います。あと、長和町のところもまた同じ蓼科高校で申し訳な
いですが、山を越えて峠を越えて蓼科へ入る訳ですが、そのバスが非常に高額なのですけれ
ども、そんなところの支援をたぶん長和町の方からも出しているというよう
な例はございます。ですが、いずれもやはり先ほど久根校長先生からありましたけれども、非
常に地域の公共交通機関と言いますか、バスの価格というのですか非常に交通費が片道だ
けでもかなり高価なものですから、やはり親御さんの送迎であるとか、更にはバイク通学の
許可であったり、それは雪が降れば当然また親御さんの送迎に変わるわけですが、
やはり公共交通機関というのは学校を選択する際にも非常に大きな要素になってくると、
これは地域の生活にも同じだと思うのです。公共の交通機関というのはやはり高齢化が進
んでくるとやはりその対応というのが出てくるという場合と一緒に、そんなところが大き
な課題となっております。

日墓部会長

はい、ちょっと急にはなかなか難しい話なので、またそれぞれ事務局等でそういう事例と
かを研究させていただいて、どうしてもやはり公共交通の弱い地域でありますので、その辺
の対応について何ができるのかという事も含めて、ちょっと検討していかなければなら
ないというふうに思います。はい、その他、皆さんの方で何かご意見とか、村松さん何かど
うですか。

下高井農林高等学校 村松同窓会長

元に戻ってしまって申し訳ないのですけれども、先ほどいろいろな方、県教委の方から出
ているのですけど、例えばですね、このような学校の授業のところへ入れこまれちゃうと校
長先生も大変なところだと思いますけれども、今この地域で米が美味しいと、美味しい米だと今
は皆、食味コンクールでわかっているのですけども、どうして美味しい米ができるのと、い
うところまでは耳に入ってこないのですよね。先ほどタンパク質が云々という話もありまし
たけれども、それじゃあ水が良いのか、有機肥料を使っているから美味しいのかそういうのが

全然わからないのですよね、正直言って。そういうのがわかっていて、この地域の米というのは美味しいんですよ、という一つの美味しい米作り、米作りというのはそういう環境だとかそういうものも含めた中の事業、細かいことを言えばこれは大学で研究してもらえば良いじゃないかという話になりますけども、それ以前の問題でそういうものから出発してこういう作り方をすれば美味しい米が作れるんですよとか、それから森林についてもそうなのですけども、森林についてもただドローンを飛ばして森林の現況を把握して、何パーセント間伐すれば良い山になるだとそういうのでなくはくて、森林というのは今現在この地域にどれくらい、何本くらいあるのかその中で今、間伐しなければならぬものがこれくらいあるとか、そういうものをある程度把握した中で、今までは山の中へ入って行って手で挑戦していたというのが今度は、ドローンを飛ばせば凄く便利に出来ますよとその一番の、そばもそうなのですが先ほどのそば打ちというものだけに捉えてみれば、農林高校生もやっているのですけども、種を蒔いてこういう育て方をして、収穫してそれを粉に挽いてそばにすると、その一連の流れというのは課題研究の中でも結構ですので一つの、例えばそば打ち体験というのであれば、一番元になる部分からある程度の・・・いいのかなとそんなような気がしているところです。それからですね、もう一つ支援の話ですけども、同窓会として何を支援できるかという話になるのですけども、正直うちの同窓会としても非常に財政的に厳しいという事でございまして、先般、役員会を開催しまして何かいい方法はないのかなというような話を相談させてもらいましたけども、そのような中で色々な講師を頼んできて学校の方でこういう講師が必要だと、こっちの分野についてはこの講師がいいじゃないかというふうについて、若干でも謝礼みたいな形で支援できればいいのかなというような形です、この予算的なものもありますので、新年度に向けて同窓会として検討していきたいなとそんなふうにございまして、以上でございます。

日墓部会長

今の話は大事な話なので、高校生がやはりそういう研究を深めてもらう、そしてまたそれを発表していく、地域に返していくというのが逆に言う地域と繋がる、考えていく、魅力になっていくというふうに思いますので、またその辺で是非、高校だけでなく皆が協力し合いながらそういう課題研究を支援していければというふうに思います。皆さんもご意見いただいているので。中学校の方でどうですかね、こういうような事をすればまた高校の魅力が上がるんじゃないかとかあれば。

中野・下高井中学校長会 木島平中学校 伊賀校長

はい、中学校もできる範囲の事はもちろんやっていきたいと思っておりますし、中野下高井の中学校、先ほど豊田中学校のキャリア教育の件が話の話題にいただきましたけれど、できるだけ早目に交流で、ただ交流もただやってもらうだけの片方の一方通行じゃなくて、お互いにメリットのあるものがやらないとたぶん長続きしないと思うので、お互い農林高校さ

人にとってもメリットがあるのだけれども、中学校にとってもメリットがないとやはりどちらかがきつと衰退していつてしまうのかなと思うので、そこを無理のない範囲で、長続きのする交流を考えていかないといけないかなと、高校ももちろんですが、中学校も方も同じように考えていきたいと思っています。あとこれは小中両方に関わる事なのですが、例えば高校でいう課題研究というお話だったのですが、小中の方でも例えば農業に関わる、または生き物飼育に関わる活動をしている、或いは木島平小学校でも生き物を飼ったり色々している訳なのですけれども、何か困ったときに相談できる場所というのが、よく農協さんであったり地域の中に色々聞けるところに聞いていく部分もあるのだけれども、その中の一つに是非農林高校さんも入っていただいて、ちょっと小学生が聞きたくなったらそれが接するみたいなそういう関わりができると、そういうように日常的になってくるといいのかなというように思います。そういうところでも、是非お力をお借りできればと自分の中では思っています。はい、以上です。

日基部会長

はい、ありがとうございます。上埜さんどうですか。

下高井農林高等学校 上埜PTA会長

たくさんの方の具体的な取り組みが上がる中で、是非進めていっていただきたいのですけれども自分として何ができるのかという事を考えたときになかなか、私、交流事業というところで名前を上げていただいているのですけれども、ちょっとどういうふうに関わりに関わっていけばいいかなという、ちょっとまだあの見えていないのですけれどもすみません。この交流事業の中で高校生が中学校へ、中学生が高校へ色々なパターンでの交流というものが挙げられていますけれども、是非、飯山市さんの方で百姓塾でしたか、そういった取り組みがあったりとか、市民、地域の方が高校生に農業を教わるというとても地域の方としても魅力的かなと思いますので、是非このコロナが終息した暁には、そういった事が有効にスタートするように準備も協力できればいいかなというふうに思っております。

日基部会長

はい、できる事をやっていけばいいんじゃないかなというふうに思います。ここに載っているからと言ってこれ全部やるというのはたぶん無理だと思います、実際のところ。やっぱり高校生もくたびれちゃうし、周りの皆もくたびれちゃう。そういうレベルだとなかなか長続きしないので、この中でいいものを温めながら成長させていくという形でいいのではないかなというふうに思います。あと、栄村森林組合さんはどうですかね、何か。

栄村森林組合 上野さん

はい、栄村森林組合の上野由希奈です。森林組合と言っても仕事内容は結構特殊でして、

農林高校生と一緒に何か、一緒に体験するというのもちょっと幅が狭くなるというか、どう
いう事を。難しいですね。

日基部会長

はい、北信州森林組合がやる時にちょっと一緒に参加して、一緒に様子を見てもらうとか
その程度でいいのかなというふうに思ますし、バイオマスはやっていましたっけ。

栄村森林組合 上野さん

はい、そうですね。北信州さんもそうなのですが、この地域に生えている杉とかは雪と
かで押されて根曲がりという利用材とかが結構多く出ていまして、そういった関係で建物
に使える柱とかいうのはあまり採れない材とか出てくるのですが、そういうものをチップ
に細かく砕いてそれをバイオマス発電所へ持って行って燃やしてその力で電力を作るとい
う事をしています。

宮川副部会長

今うちの森林組合、若い人たくさんいますから高校生の皆さんと何か非常に何か気持ち
よく色々な話ができそうな気がして、一緒に何かやれる話せる場だとかあるような気がす
るけど。

栄村森林組合 上野さん

そうですね、はい。

宮川副部会長

機械類もかなりあるじゃないですか。

栄村森林組合 上野さん

機械はあるのですが、はいそうですね、免許も特殊だったりしてなかなかすぐには乗れ
なかつたりとか、ああいう機械は大きいので、やはり怪我とかすとかすり傷とかではなく
大きな怪我になってしまいますので経験も大事になってくるのですが、やはり若い子から見
れば凄く魅力的な仕事に見えると思うので、そういうのは実際に教科書だけだとなかなか
イメージがつかなくなったりするので、実際にインターンシップとかで実際に見てもらえば、
あー林業ってこういう世界なんだなという大体のイメージを作ってもらえれば、少しでも
興味が湧いてくるのかなというように思います。もしそういった、ぜひ見せてほしいとかい
う高校からのお願いがありましたら、自分たちも全面的に協力します。

日基部会長

はい、ありがとうございます。学校の方で今力を入れているSDCs的なやはりバイオマスとか有効に資源を活用するというのも一つの取り組みだというふうに思いますので、その面でもこの高校生に色々勉強する場を提供してもらってもいいのかなというふうに思います。色々な事が考えられますので、また是非、可能なことから取り組んでいくというふうにしていきたいと思います。ただ、先ほども言ったようにあれもこれも全部やるとなるとやはりくたびれちゃうので逆に今度長続きしなくなるので、できる事を一つづつしっかりとやっていくと、そしてまずは情報を発信していくという事が一番大事だなと、地域に対してそれから小学校、中学校と国内に向けて色々な意味で、下高井農林高校というのはこんな事をしている、行けばこういうことができるというような事を思い切り宣伝していく、情報発信していくというのがやはり大事ななというふうに思いますので、また皆さんの方でも何かあるといったときにただ交流事業をするだけでなく、それをしっかりと北信ローカルさんと呼んで情報発信してもらおうとか、色々な形で目に触れてもらえるようにしていく必要があるかなというふうに思います。なかなか具体的なところに突っ込んでいけないのですが、大方、皆さんのご意見をお聞きした中で、それらを参考にしながらまた更に来年度具体的な事業また絞り込みにいければというふうに思いますが、この件についてまた皆さん特にこれは是非やっていきたいなというふうなご意見がありましたらお願いいたします。

北信州森林組合 滝沢利用事業室長

すみません、ちょうどシーズンになりますので先ほどドローンの関係は担当外と言っていたのですが、今回除雪車の体験、これは10月に農林学校さんで除雪車を展示してしてもらったのですが、今、私のポジションから言いますと除雪車の乗車体験、公道では当然助手としては認められませんので、駐車場なら横に乗せて体験できます。実際に雪をやはりかまっていたら、除雪車で除雪をしてもらう。これは全然問題ないと思います。本人がやるのではなくて到底、横に乗るだけです。けれども横に乗っただけでも全然違いますので、車両系建設機械があれば駐車場なら全然やってもらってもかまわない。そんな事が今の私のポジションでできますので、是非やってもらった方がありがたい、やらないと面白みがない。ただ乗って、除雪車こういうところに乗ってみて高いところからこんな感じに見えるんだなじゃなくて、実際に雪をかまえるという体験を野沢温泉の駐車場を、たまたま私たちがかかせてもらっていますので、それは可能ですので是非やってもらって、せっかく雪国ですので建設業これからどんどん私たちの森林組合もそうですけど、夏場は林業をやっていますけど冬場は全員除雪に関わっていますのでこれは一番大事なところでして、若い人たちも楽しいところだと、除雪が楽しいと言っていますのでそういう事を本当に経験してもらえればいいと思います。是非校長先生、私段取りしますのでよろしく申し上げます。

日基部会長

はい、その他にも色々な前向きなご意見がありましたらお願いいたします。

下高井農林高等学校 久根校長

ありがとうございます。除雪の方は本当に、そこへやはり乗るだけでも違うという事で提案していただきましてありがとうございました。中学生にもそういう経験をどこかでさせたいなというのを私、ちょっとそれを見ながら思っていたのですが、本校の体験入学の時に機会があって、体験できるかどうかは別なのですけども、中学校でも、もしそれがあって本校へ来ればそういうような建設機械の機器の資格も取れるよというような話とか、中学校訪問させていただいた時にしている話なのですけども、やはり機械を見るのと言葉だけだと全然違うかなと思いますので、何かそういうような機会があればいいのかなとちょっと思いましたので、またご相談させていただければと思います。置いてあるだけでも本当に違うかと思います。

日碁部会長

また中学校も含めて、中学校と言っても木島平だけでなく飯山も野沢も栄村も中野市だっていいし、幅広くまたちょっと声をかけて興味関心ある子に見てもらおうとかね、そして今度下高井農林高校へ行けば実際にそれに乗って体験、体験まではできなくても色々経験できるので、また情報発信できればなというふうに思います。その他。

信州いいやま観光局 石田常務

全く違う事なのですが、県教委からおいでですのでちょっと確認させていただければと思うのですが、この第1回の時に日碁部会長さんがおっしゃった下高井農林高校の存続のためという前提の中で私共は集まって高校の魅力づくりですとか、或いは教育の中身について色々な議論をさせていただいているのですが、その片方で県教委さんのお示しいただいているこの提案を中学校卒業生の推計ですとか、或いは存続のための数値的な数値、ガイドラインみたいなものをお示しいただいたのですけども、この中で県教委としてのお答えしづらい部分になるのでしょうか、この私共の議論の中身と県教委のお示しいただいている数値のその辺が、これからこの会がその次の県への要望みたいな話に最終的にはなっていくと思うのですけれども、その辺の中でこの数値が少し緩やかな方へ動く余地があるのですか、そうしたものについて若干お答えいただけるのであれば、ちょっとご回答いただければというふうに思います。

長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室 上原主任指導主事

はい、今、数値的なところでのご質問をいただきました。今、お話し合いいただいております内容というのはこれからの農林高校の魅力化づくり、生徒、中学生の期待に応える教育の場をいかに創出していくかというところでのご協議いただいているところなのですけれども、こちらの方で示しましたこの資料の中にもございます県への要望、要請活動の例えば

要請のところに、「なぜ160人なのか」とか、「在籍数が160人以下」というようなところだと思うのですけれどもご指摘いただいたところは、これはですねこの基準というのはもう実は中山間地の基準といえますか、地域高校の基準というのはもう平成の19年よりも前のところからございまして、この基準に従って実は中条校の長野西高校の中条校であるとか、篠ノ井高校の犀狭校であるとかいうのは地域キャンパスという、ひとクラス体制の学校になっているのですけれども、その基準に従って2校が継続、開校しております。ですので、その流れの中での数値ですので、これがこの緩くなるとかそういう事は現在のところは数字的なところはございまして、これからこの数字を割らないように何とかこう中学生に魅力を与える教育課程の編成をして、より1人でも多くの学生さんといえますか中学生に来てもらえるような学校というように今、検討していただいているところですので、この数値自体のところは変更というか、緩くなるというようにところはございせん。それはなぜかと言いますと、中山間地のこの存立校の基準であるとか、都市部存立校の基準というのは出された訳ですけれども、それに基づいて高校の再編整備の一次分というのが既にこれで確定をされております。その中に、一次分で住民説明会を行いました、この飯山と下高井農林のこの北信のところの学校がある訳ですけれども、実はここの辺りの学校というのは、先行している学校でございまして議論が。例えば隣2区、旧第2通学区の中野、須坂のところは意見提案書がこの夏に出されましたので、再編整備計画に関しては来年の3月くらいのところを目途に、二次案として県教委の方で出させていただきます。その数値に関してもやはり前提となる数字は変えませんが、本来のこの設置の基準に基づいたといえますか、再編基準に基づいた数値に基づいて再編整備計画を出させていただきます。残りの色々な各地域のところの全県版に当たるところは、再来年の3月までのところで全県版のものを出して、県全体の整備計画というのをお示しするような形になります。そのお示しするような形になるところでもやはり、この基準というのは中山間地に関しては160人、都市部存立校は520人だったかな、そういうようなところを基準を設定しております、それは変更はございません。ただ、注意していただきたいのは、この160人というのが途中で切れちゃっているのですが、「160人且つ」というふうに文章が続いているのですよね。「160人で尚且つ地域の中学校から半数以上の中学生がその学校に入学していない場合に」という事ですので、例えば野沢温泉村さんとか木島平村さんの中学校のところから、例えば栄中でもそうなのですけれども、例えば中学生の3年生のうち半数以上の卒業生がこの農林高校に入学しているとすると、160人を割っても再編基準には当たらないというところはもう住民説明会等でもお話をしてきたところなのですが、なかなかそこら辺のところ複雑でご理解をいただいているところなのですけれども、一応ちょっとでも希望する中学生がいれば、その芽は摘まずに何とか1人でも多くの希望を叶えるという事が前提で、学校をいつまでも残すという事を前提で考えていますので、一応160人というちょっと大きな数なのですけど、「尚且つ」という後の文章もあるという事をご理解いただければというふうに思います。

日躰部会長

はい、県教委の立場からすればそういう事になる訳ですが、協議会とすれば引き続きその数の見直しは、もしくは条件緩和を求めていくという考えは変わりません。他の地域まだ協議がなかなか進まないという話ですが、逆にこの地域が早く進んだというのは逆に言うと第1回にも申し上げましたが、決して地域キャンパスを求めているのではありません。地域キャンパス化をしないように、今のままで、今の状態でできるだけ存続を長くできるように、その為には早く取り組みをした方がいいだろうという事でこういう協議会、部会をもってある訳です。正直言って、何もしないでグズグズして先延ばしにすれば、その間に160人を割るような状態になり兼ねない、それを食い止めるためには早めに手を打つ、地域の高校の魅力を高めていくという取り組みをしていかなければならないという事で、言ってみれば他の地域に先駆けて動き出したという事ですが、先ほど言ったみたいに、条件緩和については引き続き無理だと言われても要望していくという姿勢については変わりません。そろそろ時間で、まだなかなかまとまりのつかない中身ではありますが、また最初の話のとおり出されました意見、更に具体的に絞り込んで次回に繋げていきたいというふうに思います。そのような事で進行の方を事務局に返しますのでお願いします。

事務局

はい、ありがとうございました。それでは、大きな4、今後のスケジュールでございますが、第3回の全体会、両部会の全体会を1月の中旬に予定しております。両部会の検討いただいた報告を改めてまた協議するという内容でございます。県への、県教委への意見、支援策等々の決定につきましては、その後、また協議いたしまして2月の初旬には確定と、最終的に県への意見、支援策の意見、提案書を提出するというような運びとなります。従いまして、今まで3回に渡りまして皆様方に農林高校部会協議していただいた訳ですけども、3回をもってこの一区切りという事ではありますが、その県への意見、提案のまたその話された報告でありましたり、今後のその取り組みの成果であったり、そうしたものの検証であったりそうしたものも大事ななとこのように考えますので、第4回、第5回という形でまた皆様方に農林高校部会開催のご案内等をさせていただきたいなとこのように考えております。高校の魅力づくり推進の為に、引き続き関係各位のご協力の方をよろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、5のその他でございますが、全体をとおして皆様いかがですか、よろしいでしょうか。

日躰部会長

はい、今、事務局の話のとおり、年度ごとに区切りを付けて要望事項も上げていきますが、この協議会また特に農林高校部会については、ずっと続けていくという事でご理解いただきたいと思ひます。目的が達成できるまでというよりも、下高井農林高校が存続できる状況

をずっと支えていくという事なので、年度ごとに要望事項を県の方へ上げていきますが、活動そのものはずっと続くものだという事でご理解いただきたいというふうに思います。その中で、更に更に中身を高めていくという事で考えていますのでよろしくお願いいたします。

事務局

はい、それでは全体をとおしてよろしいですか。はい、大変長時間に渡りありがとうございました。以上をもちまして、第3回農林高校部会閉会いたします。ありがとうございました。